

小千谷市
こども計画策定に係る調査

結果の概要

令和6年度に「小千谷市こども計画（仮称）」を策定するにあたり、基礎資料として子育て世帯のニーズや実態、若者の意向等を把握することを目的として、下記子育て支援ニーズ調査、子育て世帯の生活実態調査、子ども若者調査を実施した。

本編ではその結果をまとめる。

1. 調査の対象と回収数

(1) 子育て支援ニーズ調査

調査対象	配布数	回収数	有効回収数	有効回収率
就学前児童の保護者	900件	692件	692件	76.9%
小学生の保護者	1,100件	825件	819件	74.5%

(2) 子育て世帯の生活実態調査

調査対象	配布数	回収数	有効回収数	有効回収率
小学5年生と中学2年生の保護者	579件	433件	431件	74.4%
小学5年生と中学2年生	579件	410件	404件	69.8%

(3) 子ども・若者調査

調査対象	配布数	回収数	有効回収数	有効回収率
18歳から39歳の市民	1,000人	383件	382件	38.2%

2. 集計結果の見方

- ・ グラフ・表中の「n」はアンケートの回収数を示した。
- ・ 比率はすべて百分率（%）で表し、小数点第2位を四捨五入して算出した。従って、合計が100.0%にならない場合がある。
- ・ 複数回答の場合、回答の合計比率が100.0%を超える場合がある。
- ・ グラフ・表として示したもののうち、回答数が0の場合は表示を省略している場合がある。また、質問文、選択肢を簡略化してある場合がある。

3. 調査結果

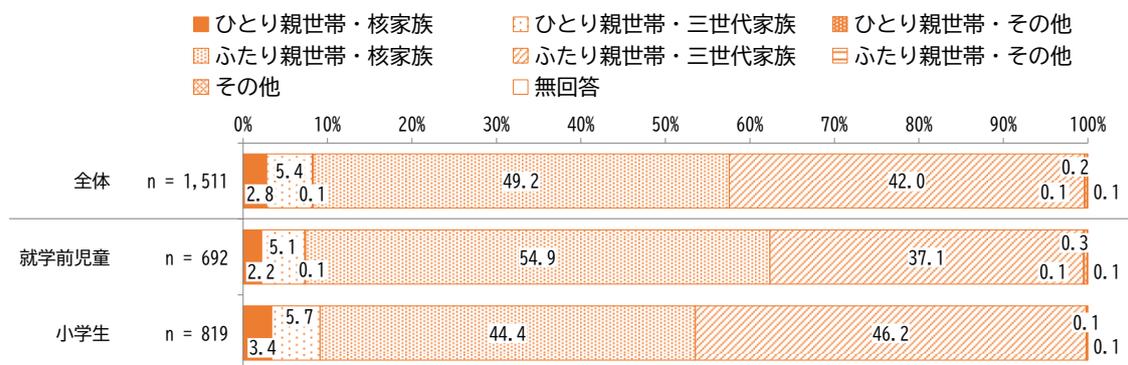
(1) 子育て世帯の状況

- ▶ ひとり親世帯が 8.3%となっている。また、核家族は 52.0%となっている。
- ▶ 祖父母の居住状況では「いずれの親とも同居・近居ではない」が 23.6%となっている。

宛て名のお子さんからみた家族構成をお答えください。

(就学前児童 問5、小学生 問6)

図表 1 家族構成(ニーズ調査)

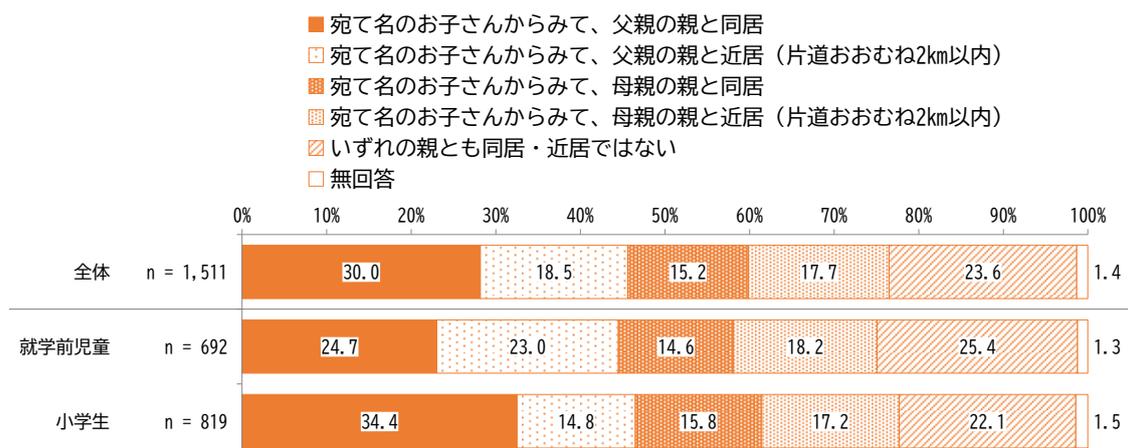


※上記質問への回答から区分している

宛て名のお子さんとお子さんの祖父母との同居・近居の状況についてお答えください。

(就学前児童 問8、小学生 問9)

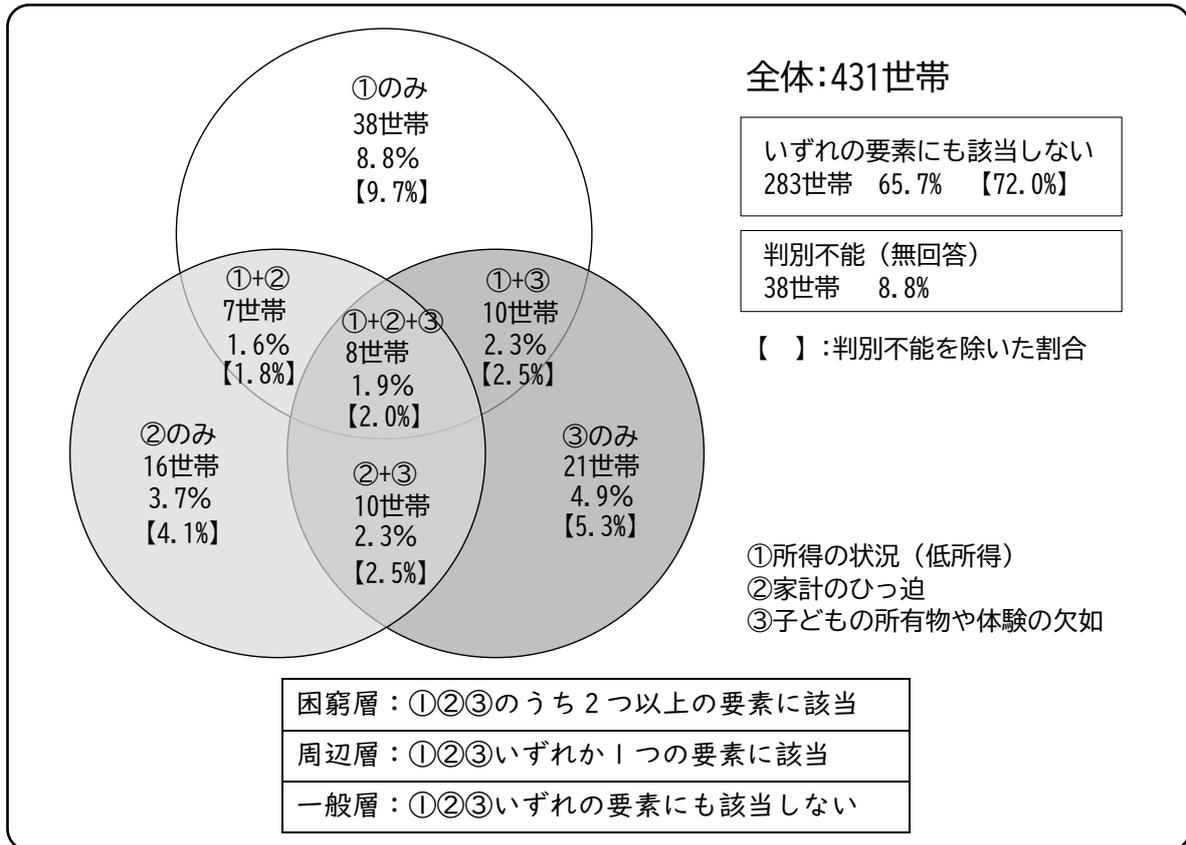
図表 2 祖父母の居住状況(ニーズ調査)



➡両親のみ、親ひとりのみで子育てをしている世帯がある。

- ▶ 生活実態調査（保護者票）では、「所得の状況（低所得）」、「家計のひっ迫（経済的理由で購入できない、支払い滞納経験の有無）」、「子どもの所有物や体験の欠如」の3つの要素から「生活困難度」を集計した。

図表 3 生活困難度（生活実態調査 保護者票）



➡集計の結果、困窮層は8.1%、周辺層は17.4%、一般層は65.7%となっている。

(2) 母親の就労状況と育児休業の取得

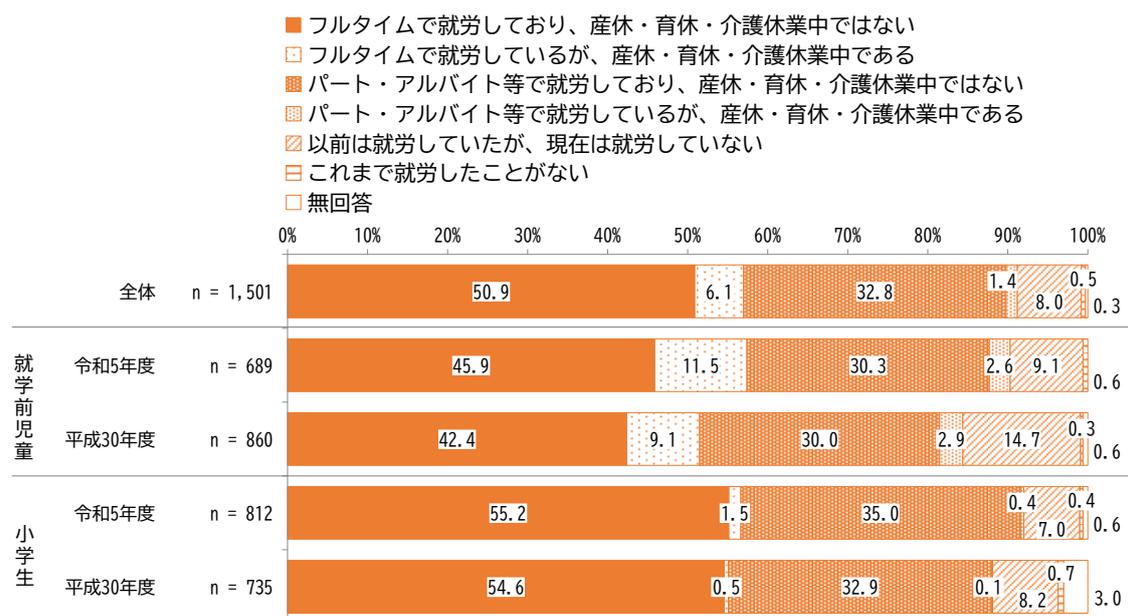
1) 母親の就労状況

母親の現在の就労状況（自営業、家族従事者含む）をお答えください。

（就学前児童 問 11、小学生 問 12）

- 母親の就労状況を見ると「フルタイムで就労しており、産休・育休・介護休業中ではない」が50.9%となっている。

図表 4 母親の就労状況（ニーズ調査）

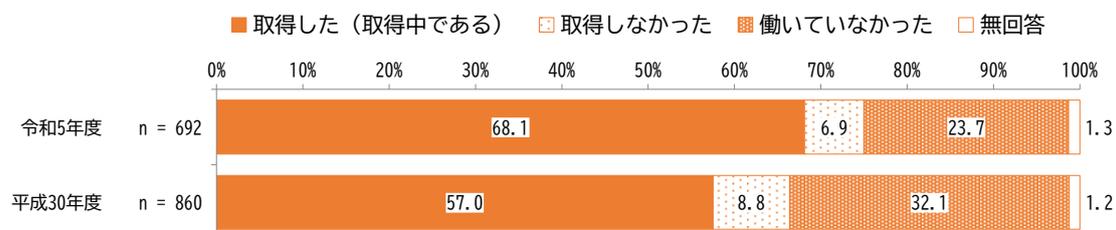


2) 母親の育児休業の取得

宛て名のお子さんが生まれた時、育児休業を取得しましたか。（就学前児童 問 25）

- 「取得した（取得中である）」が68.1%、「働いていなかった」が23.7%となっている。
- 平成30年度調査よりも「取得した（取得中である）」が11.1ポイント上昇している。

図表 5 母親の育児休業の取得（ニーズ調査）



- ➡平成30年度調査よりも母親のフルタイムでの就労率、育児休業の取得率が上昇しており、就労環境や育児休業を取りやすい環境が整いつつあることがうかがえる。一方で、育児休業を取得しなかった母親もいることから、より一層の環境整備が求められる。

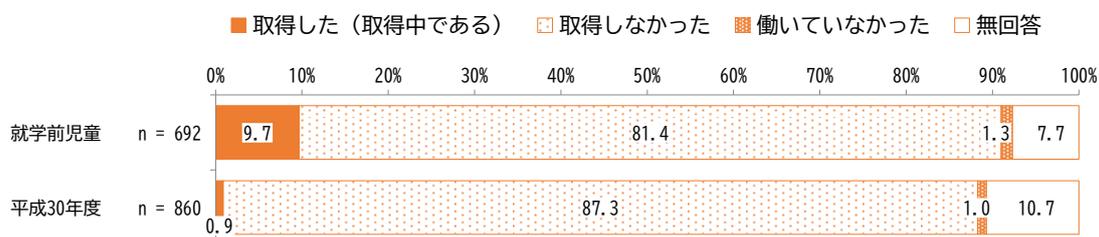
(3) 父親の育児休業の取得と育児への参加

1) 父親の育児休業の取得

宛て名のお子さんが生まれた時、育児休業を取得しましたか。(就学前児童 問25)

- 「取得しなかった」が81.4%、「取得した(取得中である)」が9.7%となっている。
- 平成30年度調査よりも「取得した(取得中である)」が8.8ポイント上昇している。

図表 6 父親の育児休業の取得(ニーズ調査)



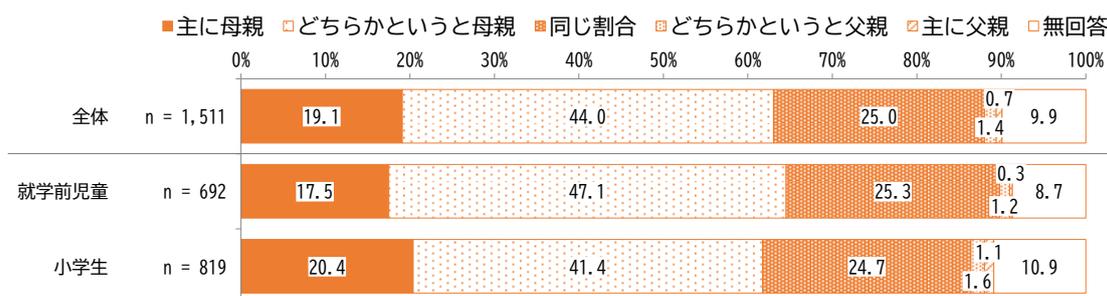
2) 育児を担う割合

育児について、母親と父親が担う割合はどの程度となっていますか。

(就学前児童 問10、小学生 問11)

- 「主に母親」が19.1%、「どちらかというともう一方」が44.0%となっている。

図表 7 育児を担う割合(ニーズ調査)

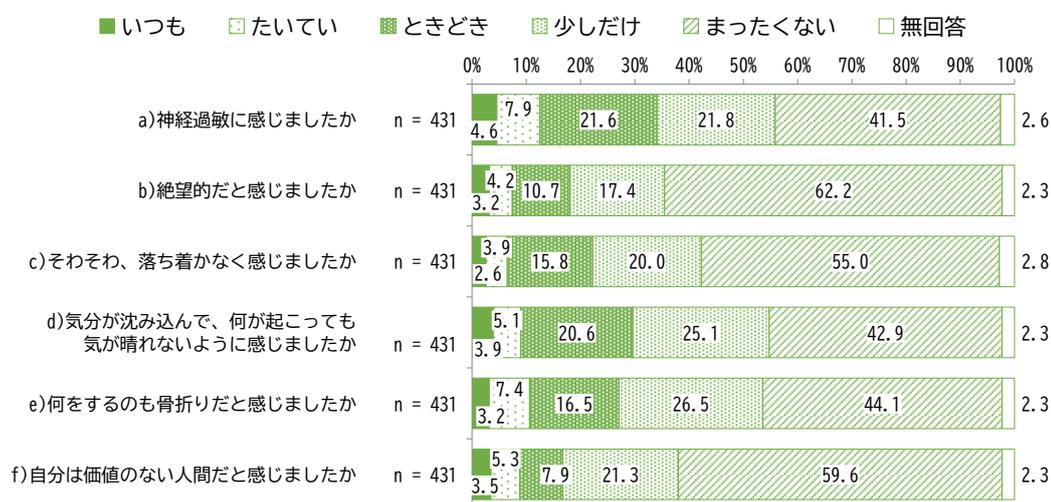


- ➡ 平成30年度調査よりも上昇しているものの父親の育児休業の取得率は10%未満となっている。また、育児については、母親が担う割合が高くなっている。父親が、育児休業を取得しやすい環境や育児を担える環境を整えることが求められる。

(4) 保護者の精神状態

問 36 あなたは、過去1か月で、どれくらいの頻度で以下のようなことがありましたか。

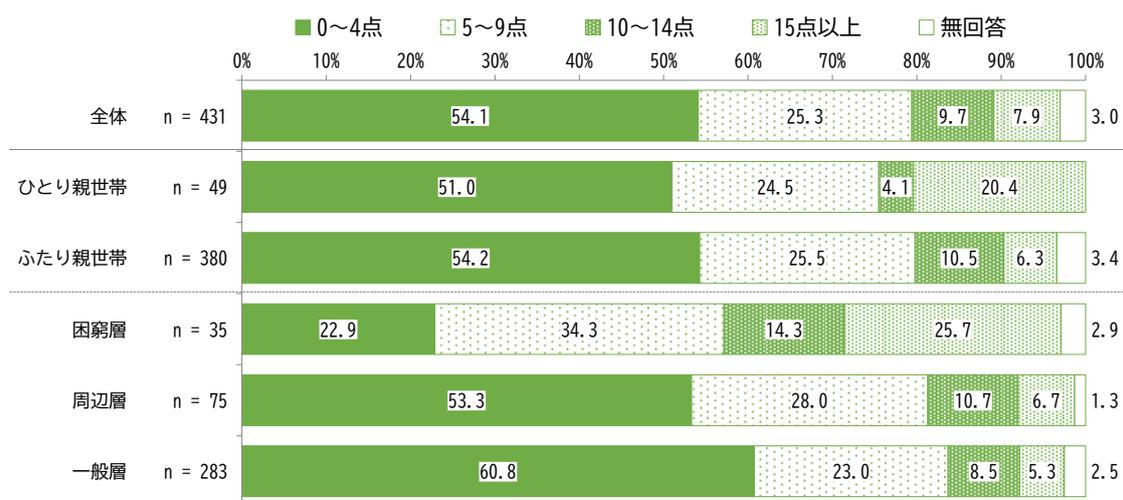
図表 8 精神状態(生活実態調査 保護者票)



上図より、K6 スコアを算出した。K6 とは、うつ病・不安障害などの精神疾患をスクリーニング(選別)するために開発された尺度で、上記6つの項目について5段階(「まったくくない」(0点)、「少しだけ」(1点)、「ときどき」(2点)、「たいてい」(3点)、「いつも」(4点))で点数化し、6項目の合計点数が高いほど、精神的な問題がより重い可能性があると考えられている。

- 「0~4点」が54.1%、「5~9点」が25.3%、「10~14点」が9.7%、「15点以上」が7.9%となっている。
- 困窮層では、「10~14点」が14.3%、「15点以上」が25.7%となっている。

図表 9 K6 スコア



➡ひとり親世帯、困窮層でK6スコアが高くなっている。

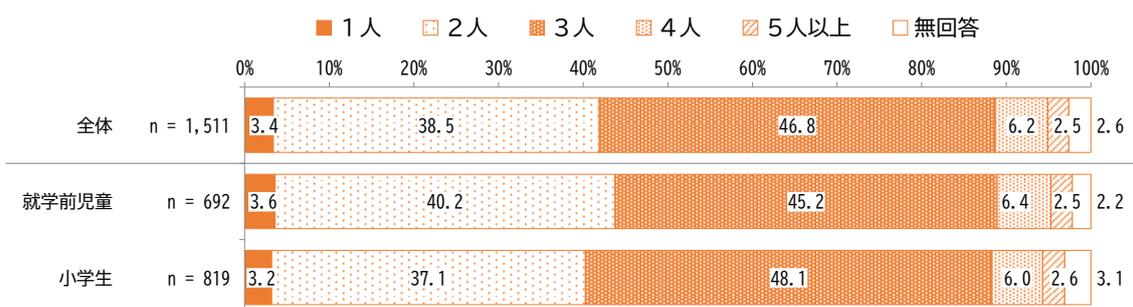
保護者の精神的な負担を軽減できるように、周りが支えることが求められる。

(5) 持ちたい子どもの人数

持ちたい子どもの人数は何人ですか。(就学前児童 問 35、小学生 問 26)

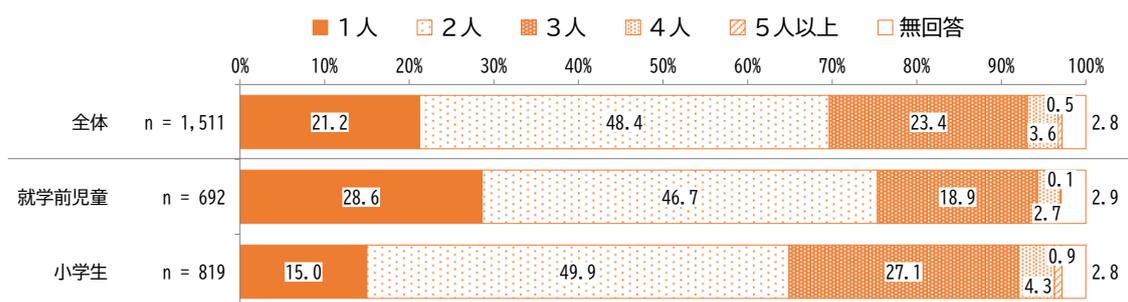
▶ 理想は「3人」が46.8%で最も多く、次いで「2人」が38.5%、「4人」が6.2%となっている。

図表 10 理想の持ちたい子どもの人数



▶ 実際は「2人」が48.4%で最も多く、次いで「3人」が23.4%、「1人」が21.2%となっている。

図表 11 実際の子どもの人数



(理想よりも子どもの人数少ない人のみ) 理想とする子どもの人数より実際に持つ予定の子どもの人数が少ない理由は何ですか。(就学前児童 問 36、小学生 問 26-1)

- 「子育てや教育にお金がかかりすぎるから」が 59.9%で最も多く、次いで「高年齢で子どもを産むことが困難だから」が 27.6%、「自分の仕事に差し支えるから」が 23.9%となっている。

図表 12 理想よりも子どもの人数が少ない理由

調査数	子育てや教育にお金がかかりすぎるから	高年齢で子どもを産むことが困難だから	自分の仕事に差し支えるから	育児の心理的・肉体的負担に耐えられないから	子どもは欲しいができないから	子育て支援制度や環境が良くないから	家が狭いから	配偶者の家事・育児への協力が得られないから	健康上の理由から	配偶者が望まないから	自分や夫婦の生活を大切にしたいから	末子が配偶者の定年退職まで成人してほしいから	その他	特に理由はない	無回答	
全体	775	59.9	27.6	23.9	23.0	15.0	14.6	12.0	11.9	7.5	7.0	5.9	4.4	9.8	5.0	2.2
就学前児童	408	61.3	21.6	25.5	26.7	13.7	16.9	12.7	11.5	5.6	7.4	5.9	3.9	13.7	5.6	2.9
小学生	367	58.3	34.3	22.1	18.8	16.3	12.0	11.2	12.3	9.5	6.5	6.0	4.9	5.4	4.4	1.4

➡理想の子どもの人数を持っていない理由は、子育てや教育にかかる費用が6割となっている。

(6) 子育て環境を充実するために必要な支援

子育て環境を充実するためには、市や地域による、どのような支援が必要だと思いますか。(3つまで)(就学前児童 問 38、小学生 問 29)

- 「子連れでも出かけやすく、楽しめる機会と場所の充実」が 54.1%で最も多く、次いで「安心して子どもが医療機関にかかれる体制整備(夜間や休日でも安心して受診できる医療体制の充実や、専門医の配置など)」が 52.2%、「企業における仕事と家事・育児のバランスに配慮した取り組み(子育てに配慮した勤務時間の調整や、出産・育児休暇取得の推進など)」が 32.2%となっている。

図表 13 子育て環境を充実するために必要な支援

調査数	子連れでも出かけやすく、楽しめる機会と場所の充実	安心して子どもが医療機関にかかれる体制整備(夜間や休日でも安心して受診できる医療体制の充実や、専門医の配置など)	企業における仕事と家事・育児のバランスに配慮した取り組み(子育てに配慮した勤務時間の調整や、出産・育児休暇取得の推進など)	保育園や認定こども園等にかかる費用の負担軽減	子育てに困った時に相談したり情報が得られる場の整備	発達支援センター※の整備	事業所や地域などを活用した子育てサポートの推進	産後(概ね1年)の家事援助サービス	保育付きの講座やイベントの提供	保護者の緊急時の子どもの預かりとして短期入所生活援助支援事業(シヨウトステイ)	公営住宅における多世代の優先入居や広い部屋の割り当てなど、住宅面での配慮	子どもの虐待防止や障がい児施策の充実	子育てについて学べる講座等の充実	その他	無回答	
全体	1,511	54.1	52.2	32.2	30.0	11.9	9.7	5.4	5.4	5.0	4.8	3.4	3.1	1.9	3.2	13.3
就学前児童	692	65.0	53.9	31.4	43.4	9.4	7.5	5.1	6.6	7.2	4.5	3.6	2.3	1.3	3.5	6.9
小学生	819	44.8	50.7	32.8	18.7	14.0	11.5	5.6	4.4	3.2	5.1	3.2	3.8	2.3	3.1	18.7

➡出かける機会と場所の充実、医療体制の整備が求められている。

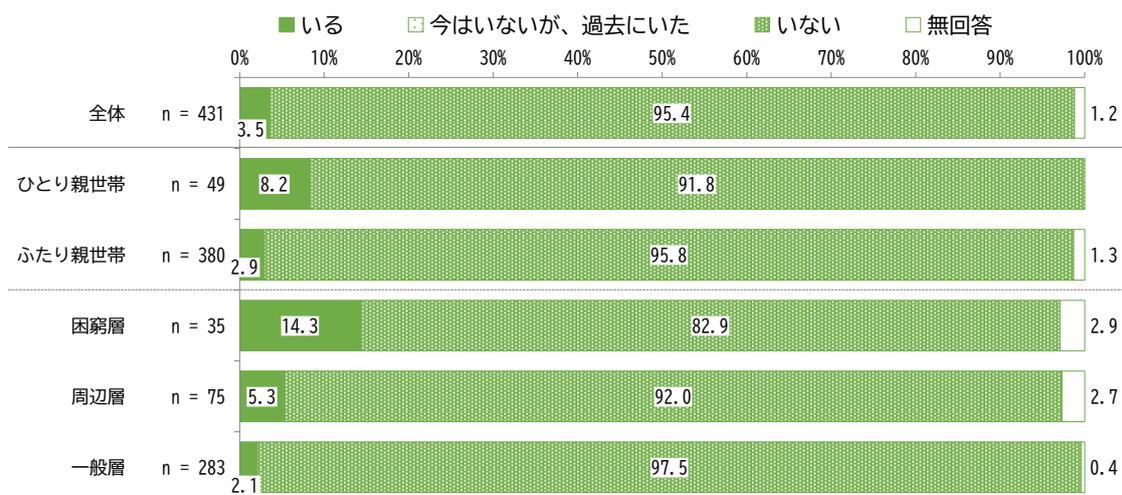
(7) 子どもの状況（生活実態調査 子ども本人票）

1) ヤングケアラーと思われる子ども

問 13 家族の中に宛名のお子さんがお世話をしている人はいますか。

- 「いない」が95.4%、「いる」が3.5%となっている。
- お世話をしていることで「宿題など勉強をする時間がない」「自分の時間が取れない」経験をした子どもは6.7%となっている。

図表 14 家事や家族のお世話（生活実態調査 保護者票）



問 13-5 お子さんは、お世話をしていることで、以下のような経験をしたことはありますか。

図表 15 お世話することで経験したこと（生活実態調査 保護者票）

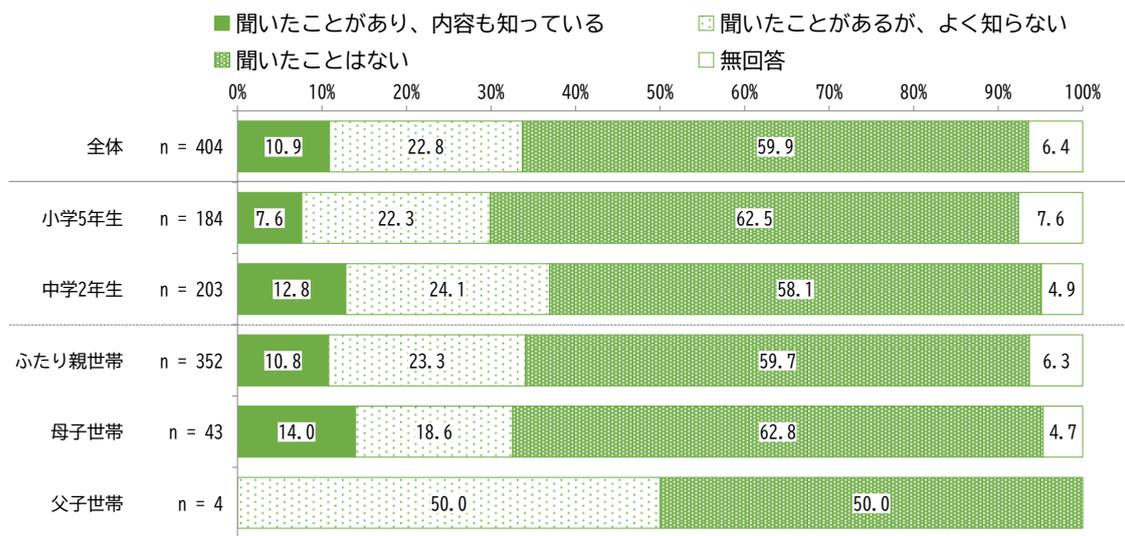
調査対象	調査数	宿題など勉強をする時間がない	自分の時間が取れない	学校を休んでしまう	遅刻や早退をしてしまう	眠る時間が足りない	友達と遊ぶことができない	習い事ができない	その他	特にない
全体	15	6.7	6.7	-	-	-	-	-	-	93.3
ひとり親世帯	4	25.0	25.0	-	-	-	-	-	-	75.0
ふたり親世帯	11	-	-	-	-	-	-	-	-	100.0
困窮層	5	20.0	20.0	-	-	-	-	-	-	80.0
周辺層	4	-	-	-	-	-	-	-	-	100.0
一般層	6	-	-	-	-	-	-	-	-	100.0

➡ いわゆるお手伝いに該当する回答も含まれている可能性はあるが、ヤングケアラーと思われる子どもはいるということを念頭に計画を検討することが求められる。

問 32 あなたは「ヤングケアラー」という言葉をこれまでに聞いたことがありましたか。

- 「聞いたことはない」が59.9%、「聞いたことがあるが、よく知らない」が22.8%となっている。

図表 16 ヤングケアラーの認知度(生活実態調査 子ども本人票)



➡ 「ヤングケアラー」という言葉は、子どもには知られていないことがうかがえる。言葉を知ることで、はじめて、自身や周りの人がヤングケアラーに該当することに気づくこともあることから、認知度の向上が求められる。

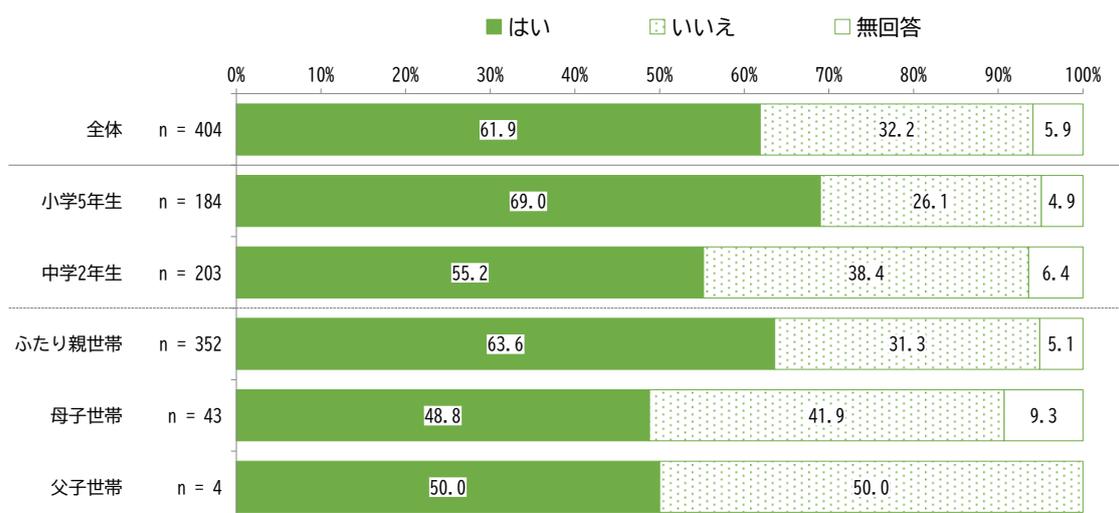
また、国、県が支援策を検討しており、この動きに合わせて、ヤングケアラーの支援方法を検討していく必要がある。

2) 子ども自身の自己評価

問 25 あなた自身について、次のことがどのくらいあてはまりますか。

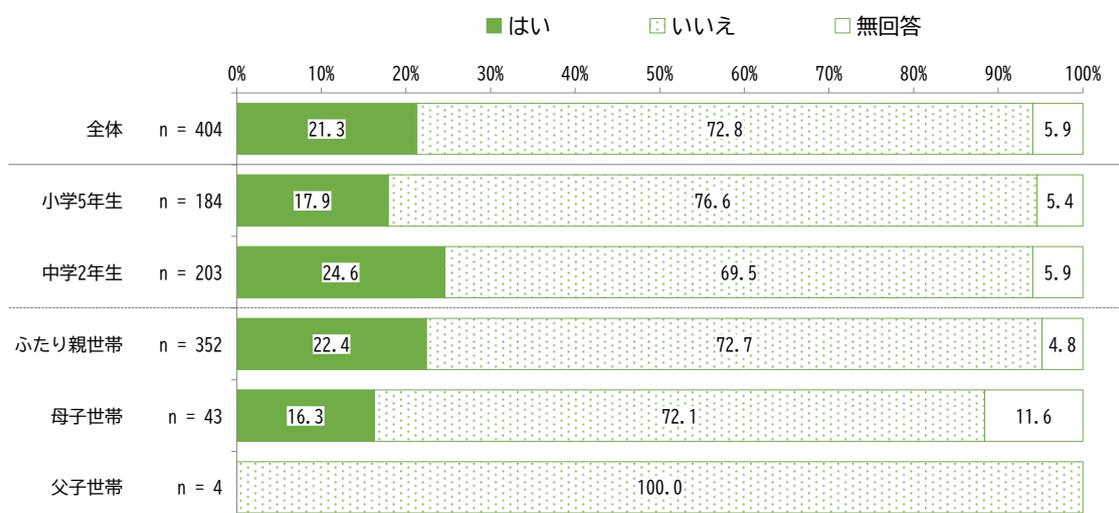
- 今の自分が好きだ(「はい」)と思っている子どもは61.9%となっている。
(参考：こども・若者の意識と生活に関する調査(令和4年度 内閣府)「今の自分が好きだ」に対して「あてはまる」「どちらかといえば、あてはまる」を合わせると78.6%)

図表 17 今の自分が好きだ(生活実態調査 子ども本人票)



- 自分は役に立たないと強く感じていない(「いいえ」)子どもは72.8%となっている。
(参考：こども・若者の意識と生活に関する調査(令和4年度 内閣府)「自分は役に立たないと強く感じるか」に対して「あてはまらない」「どちらかといえばあてはまらない」を合わせると50.1%。)

図表 18 自分は役に立たないと強く感じる(生活実態調査 子ども本人票)



➡子どもの前向きな心を育む取り組みが求められる。

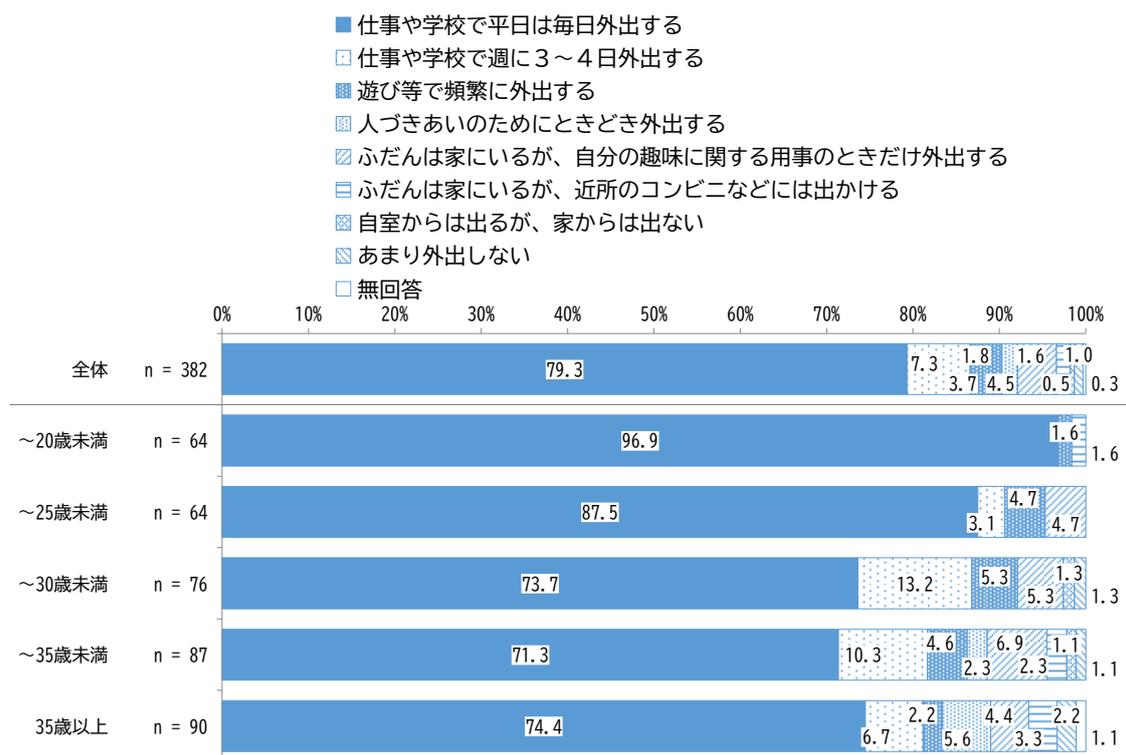
(8) 若者の状況（子ども若者調査）

1) 外出頻度

問 11 あなたは、普段どのくらい外出しますか。

- 「仕事や学校で平日は毎日外出する」が79.3%で最も多く、次いで「仕事や学校で週に3～4日外出する」が7.3%、「ふだんは家にいるが、自分の趣味に関する用事のときだけ外出する」が4.5%となっている。

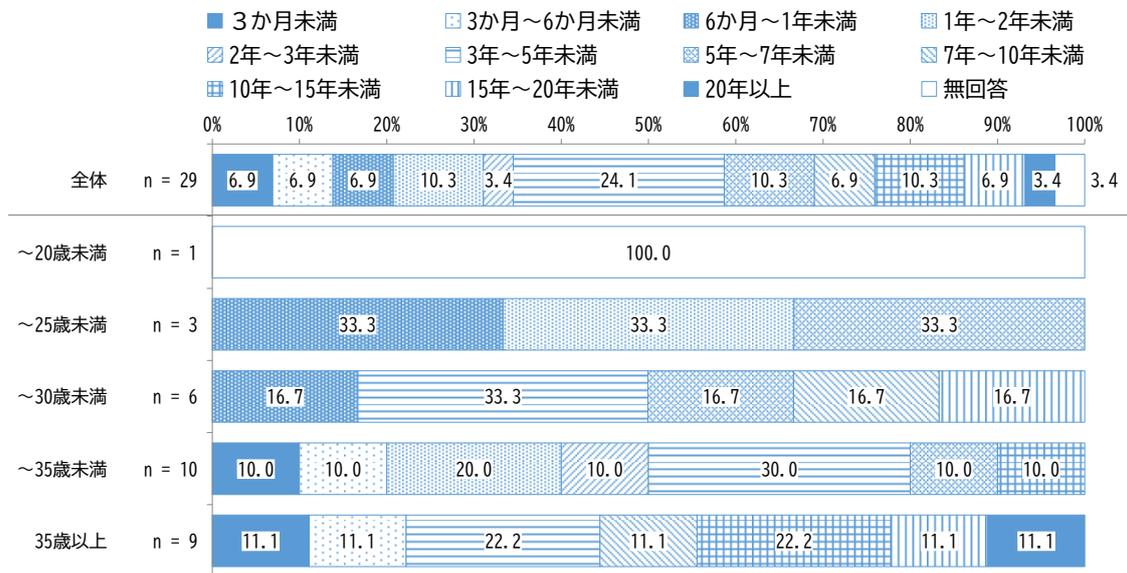
図表 19 普段の外出頻度（子ども若者調査）



問 11-1 (「ふだんは家にいるが、自分に関する用事の時だけ外出する」～「あまり外出しない」と回答した人のみ) あなたが現在の状況になってどのくらい経ちますか。

- 「3年～5年未満」が24.1%で最も多く、次いで「1年～2年未満」「5年～7年未満」「10年～15年未満」が10.3%、「3か月未満」「3か月～6か月未満」「6か月～1年未満」「7年～10年未満」「15年～20年未満」が6.9%となっている。

図表 20 外出の頻度が低い期間(子ども若者調査)



- 上記の質問から、ひきこもりに該当するか判定を行った結果、「ひきこもりに該当する」人は3.4%となっている。

図表 21 ひきこもりと考えられる人の割合(子ども若者調査)



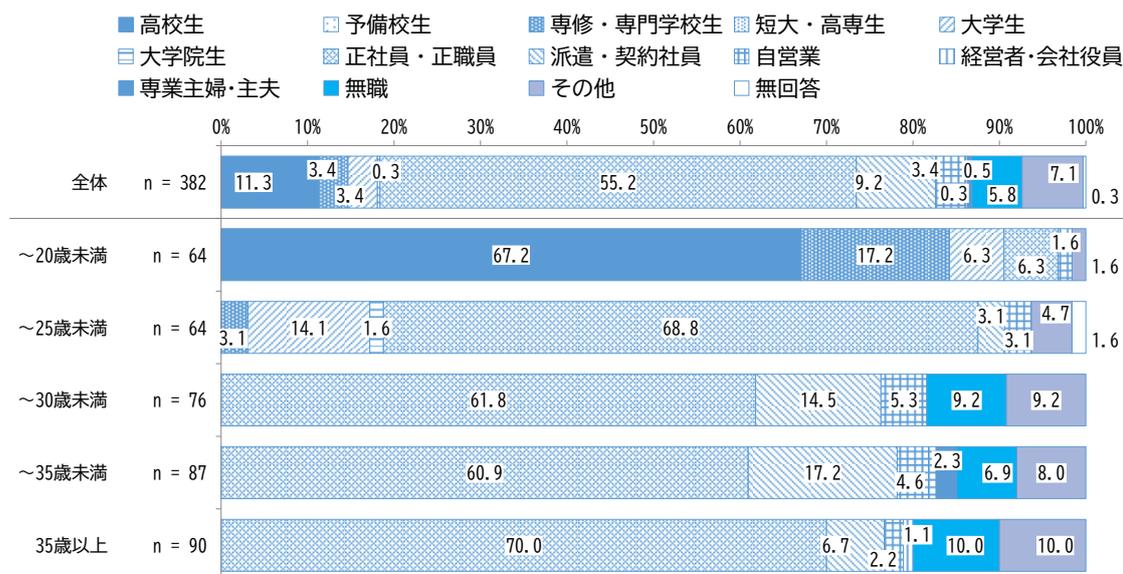
➡ひきこもりと考えられる人が25歳以上でわずかにいる。

2) 就業経験

問9 あなたの主な職業を教えてください。

- 「正社員・正職員」が55.2%で最も多く、次いで「高校生」が11.3%、「派遣・契約社員」が9.2%となっている。

図表 22 職業(子ども若者調査)

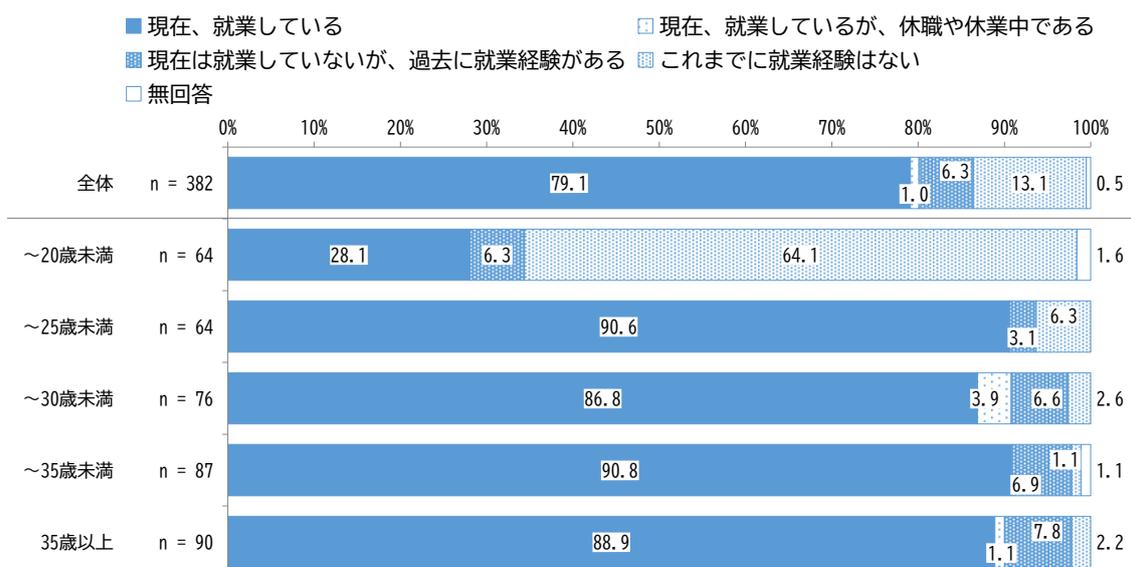


問22 あなたの就業状況、就業経験についてお答えください。

※パート・アルバイトでの勤務も含めてください

- 「現在、就業している」が79.1%となっている。

図表 23 就業経験の有無(子ども若者調査)



➡25歳以上の層で就業経験がない人がわずかにいる。

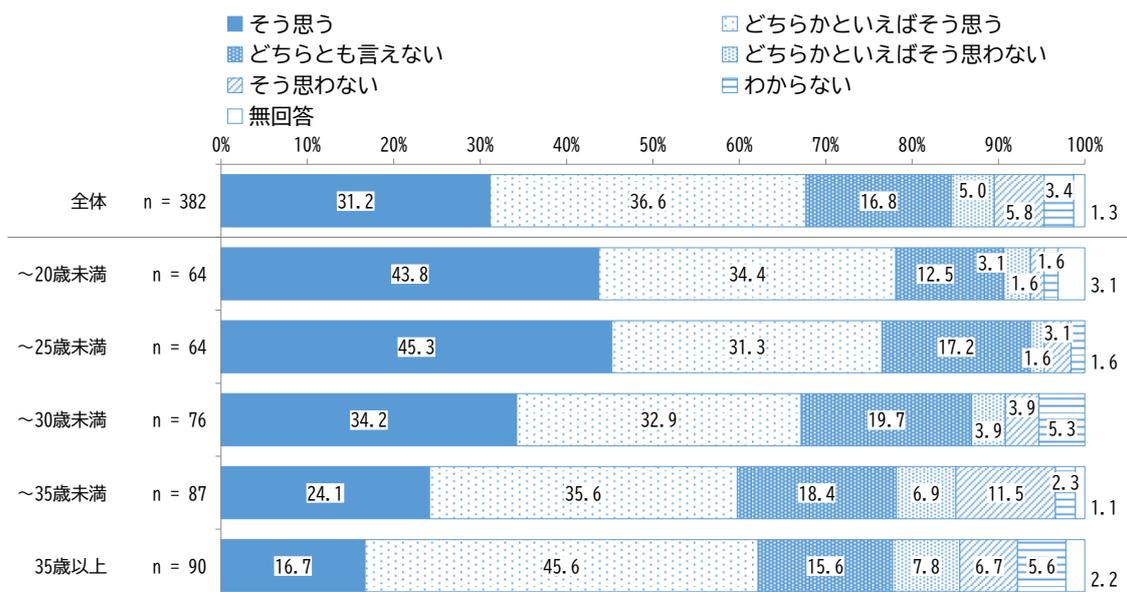
3) 現在の生活に対する考え

(ア) 幸福度

問 32 あなたは今、幸せですか。

➤ 「そう思う」が31.2%、「どちらかといえばそう思う」が36.6%となっている。

図表 24 幸福度(子ども若者を取り巻く実態調査)

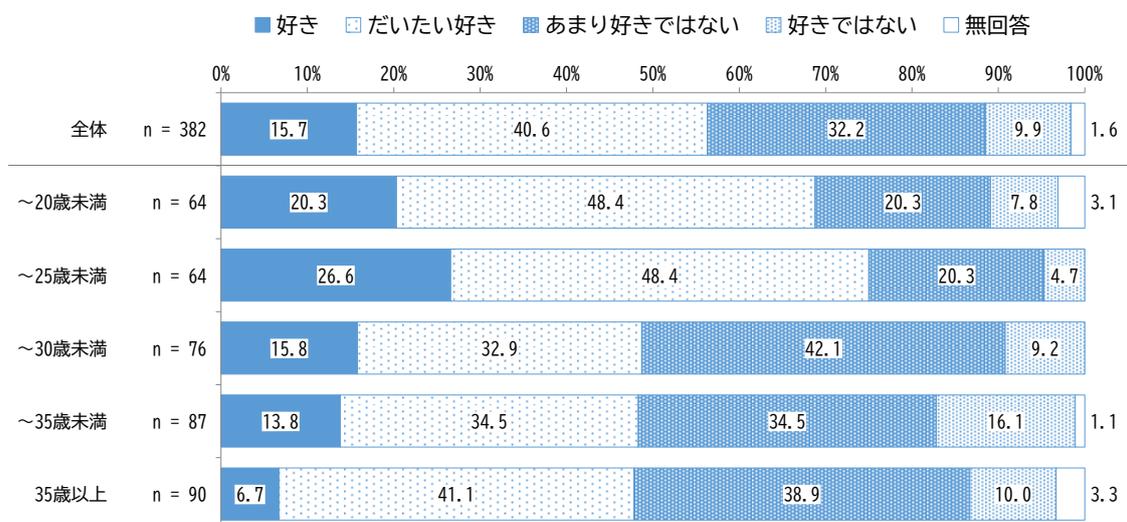


(イ) 自己肯定感

問 33 あなたは自分のことが好きですか。

➤ 「好き」が15.7%、「だいたい好き」が40.6%となっている。

図表 25 自己肯定感(子ども若者調査)

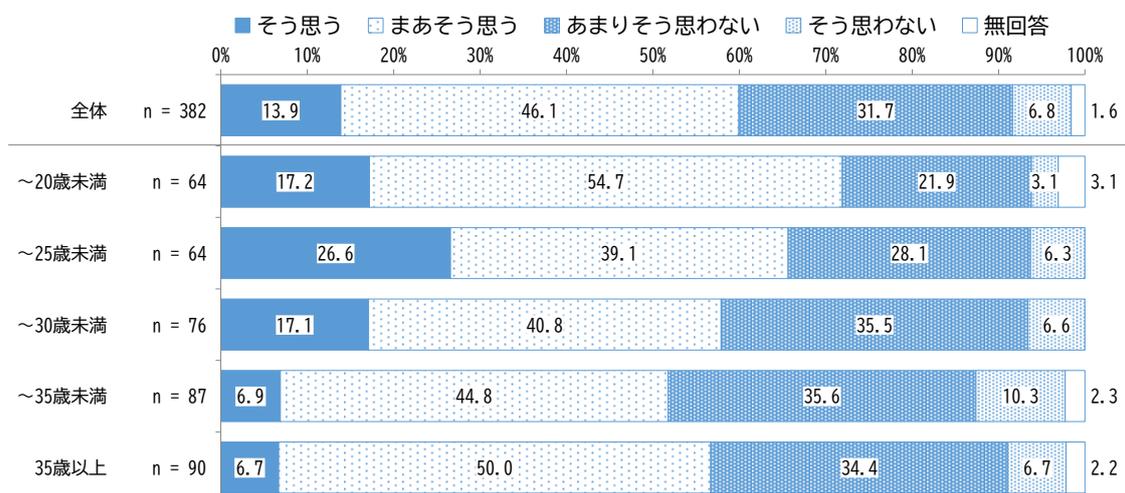


(ウ) 自己有用感

問 35 あなたは、自分が友だちや親など周りの人の役に立っていると思いますか。

➤ 「そう思う」が13.9%、「まあそう思う」が46.1%となっている。

図表 26 自己有用感(子ども若者調査)

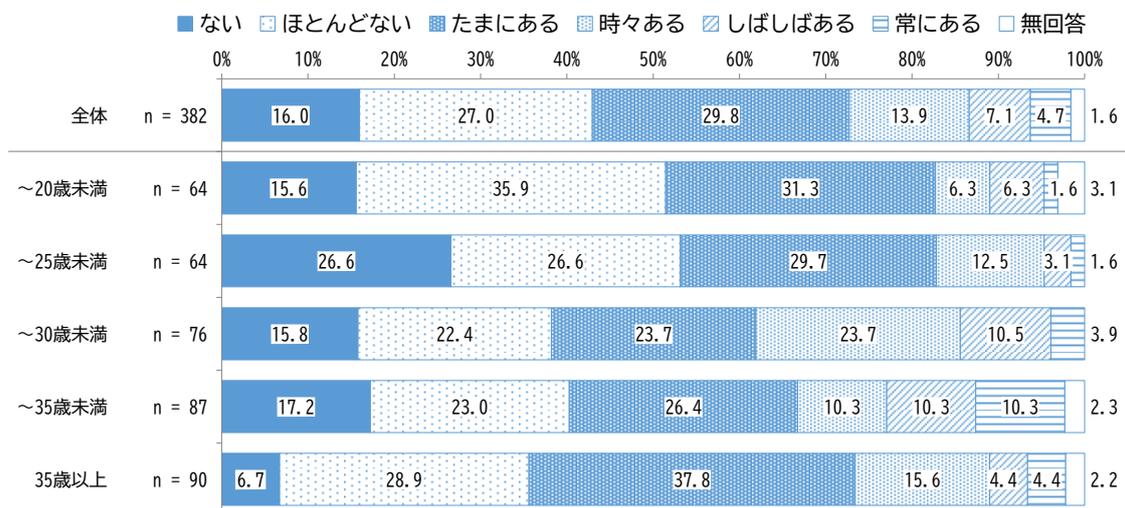


(エ) 孤独感

問 36 あなたは、どの程度孤独であると感じることがありますか。

➤ 「ない」が16.0%、「ほとんどない」が27.0%となっている。

図表 27 孤独感(子ども若者調査)



➡ 今後、指標として継続的に捕捉していくことが求められるが、本調査の結果では年代が高くなるにつれて否定的な考え方の割合が高くなる傾向がある。

4) 市の青少年や若者の施策に望むこと

あなたは、小千谷市が取り組む青少年や若者の施策にどんなことを望みますか。

- ▶ 「安心して出産・子育てのできる環境づくりを進める」が65.2%で最も多く、次いで「経済的な困難を抱えている家庭を支援する」が47.4%となっている。

図表 28 市の青少年や若者の施策に望むこと(子ども若者調査)

調査数	安心して出産・子育てのできる環境づくりを進める	経済的な困難を抱えている家庭を支援する	若者が結婚しやすい環境をつくる	ほっとできる居場所を提供する	就職に向けた相談やサポート体制を充実する	悩み等を相談できる窓口を充実する	学校教育を充実する	社会に出られない人が自立できるように支援する	参加しやすいイベントなどの情報を提供する	虐待を受けている人、虐待を受けた経験のある人を支援する	青少年の非行や犯罪防止などの取組や環境づくりを進める	地域活動や社会参加の機会を確保する	青少年や若者に関するボランティア等の活動を支援する	自分の意見を発表できる機会を確保する	その他	無回答	
全体	382	65.2	47.4	39.5	33.2	30.9	28.3	25.7	24.3	24.1	23.8	19.1	15.2	9.7	7.9	3.7	4.2
～20歳未満	64	57.8	43.8	31.3	42.2	25.0	18.8	37.5	17.2	26.6	23.4	20.3	20.3	9.4	7.8	1.6	3.1
～25歳未満	64	59.4	43.8	34.4	31.3	28.1	28.1	23.4	18.8	21.9	20.3	12.5	12.5	9.4	9.4	3.1	1.6
～30歳未満	76	77.6	48.7	46.1	25.0	28.9	28.9	23.7	26.3	21.1	26.3	17.1	10.5	10.5	9.2	3.9	1.3
～35歳未満	87	67.8	51.7	44.8	35.6	31.0	27.6	21.8	21.8	21.8	21.8	18.4	5.7	6.9	-	-	4.6
35歳以上	90	62.2	47.8	38.9	33.3	38.9	34.4	24.4	34.4	28.9	26.7	22.2	14.4	12.2	6.7	8.9	8.9

- ▶子ども子育て支援対策や貧困対策に関することが望まれている。上記の意見を踏まえて、若者に対する支援を検討していくことが求められる。